

1 目的

- (1) 授業づくりの充実を目指し、授業実践とグループワークを中心にした研究を行う。
- (2) 学部研究会を通し、各作業班や学部内における「育成を目指す資質・能力の明確化」及び「指導と評価の一体化」について共通理解を深める。

2 研究内容

2年間の研究を通して、現行の学習指導要領の基本方針に挙げられている「育成を目指す資質・能力の明確化」を『中学部段階で付けたい力』と捉え、学部目標に基づいた授業づくり、授業実践、授業改善に迫るため、今研究では作業学習に焦点を絞って研究を深めることとした。

(1) 授業提案

木工班・生産班・陶芸班から授業提案を行う。

*リサイクル班は全校授業研究会にて提案授業を行う。

(2) 学部研究会

1年次は、作業班ごとにグループワークを行い、中学部段階で育てたい資質・能力について確認する。また、そのために作業を通してできる学習活動や支援について明らかにすることにした。

2年次は、引き続き、授業実践や評価について検討しながら、授業づくりや観点別評価など日々の授業実践につなげる。また、1年次で明らかになった各作業班で付けたい力や作業目標についても検証を図り、さらなる作業学習の充実とテーマに迫った研究を推進する。

3 実践研究授業

学習指導案（略案）を作成し、学習指導要領（職業・家庭）の内容のまとまりが授業展開においてどれに当てはまるのかを明記した。これにより、内容のまとまりの共通事項が明らかになった。

- (1) 11月 7日（金）陶芸班「販売会に向けて～みんなが笑顔になるお皿を作ろう～」

授業者：村井暁子

- (2) 11月18日（火）木工班「製品販売会に向けて、製品を作ろう」

授業者：菅原考平

- (3) 11月25日（月）生産班「製品販売会に向けて準備をしよう（ネギの収穫）」

授業者：藤尾拓輝

○授業展開における共通事項（内容のまとめ）

	内容	段階
導入	○職業分野 A 職業生活 ア 働くことの意義（ア）（イ）（ウ） ○家庭分野 B 衣食住の生活 ウ、エ	中1・中2 中1
展開	○職業分野 A 職業生活 イ 職業（ア）（イ） C 産業現場等における実習 ア、イ ○家庭分野 C 消費生活・環境 ア（ア）	 中1・中2 中1・中2 中1
まとめ	○家庭分野 C 消費生活・環境 ア（ア）	 中1

但し、展開においては、本時の作業内容によって変化するものであり、つねに上記の内容とは限らない。

4 学部研究のまとめ

(1) 学部研究会

11月28日（金）、12月24日（水）の2回実施。作業班ごとのグループ協議を行った。

①第1回学部研究会

協議内容

・各作業班で『中学部段階で付きたい力』は何か。どのように捉えているか。

○令和7年度『中学部段階で付きたい力』

木工班	自分の担当を時間いっぱい、責任をもって取り組む
生産班	手本を見てすぐに行動に移すことができる力 変化に対応できる力
陶芸班	報告・連絡・相談 見通し（ゴールが分かる） 取り組む作業内容が分かる
リサイクル班	報告・連絡・相談 →態度を育てる。発展的に。

*参考

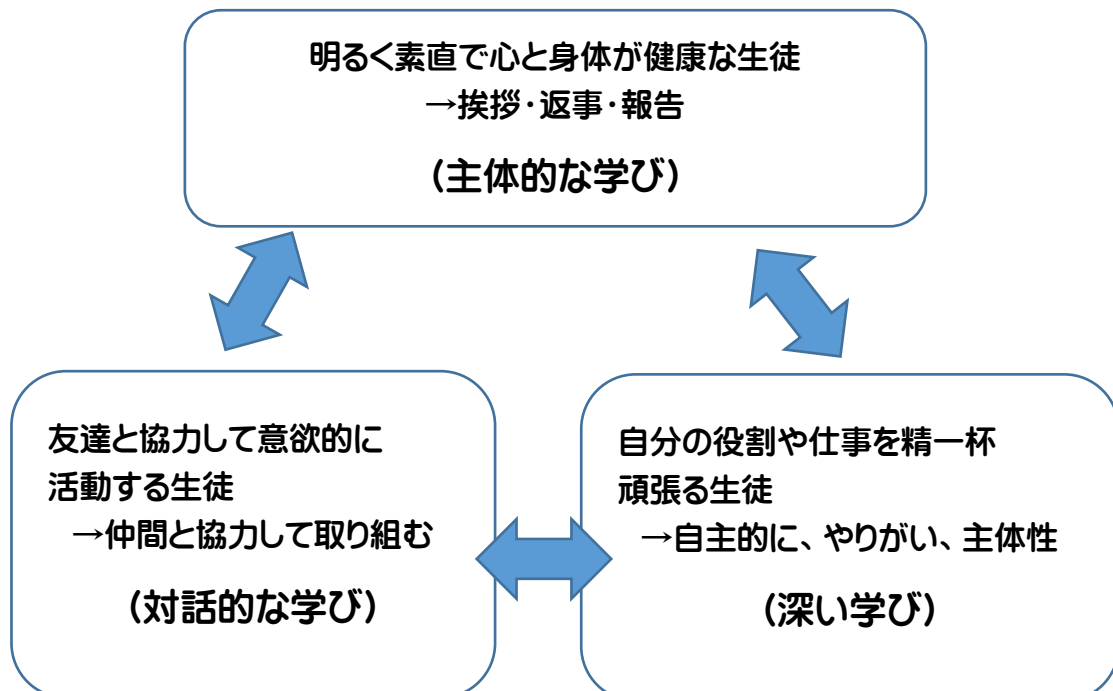
全校授業研究会において中学部研究のテーマである「中学部段階で生徒が身に付けるべき資質・能力」を各グループで協議を行った。

- 報告の仕方
- 身だしなみ
- 報告、連絡、相談（タイミングや言い方、伝え方など）
- 意欲や見通しをもって自分の役割に気付く
- 自己有用感

令和6年度『中学部段階で付けたい力まとめ』

	共通事項	各作業班で身に付けられる力
木工班	①挨拶、返事、報告 ②仲間と協力して取り組む （流れ作業、一緒に、 生徒間同士の関わり） ③自主的に、やりがい、主体的	・安全を意識した作業技術の向上 （正確さ、工程の見通し）
生産班		・体力の向上 ・多種多様な作業内容 ・販売活動を多く設定
陶芸班		・完成までの作業工程を見通す力
リサイクル班		・目的を明確にして作業に取り組む力 ・持続力

○学部目標に基づいた「中学部段階で付けたい力」・「育成を目指す資質・能力」



②第2回学部研究会

協議内容

・令和8年度の各作業班目標について

評価の観点「職業・家庭」の教科に合わせるという視点からこれまでの中学部における全体の作業目標を学習指導要領の「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を設定した。これに基づき、各作業班の目標も3観点に沿った内容を作業班ごとに考えた。

	知識及び技能	思考力・判断力・ 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
中学部全体	生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	将来の家庭生活や職業生活に必要な事項を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。	よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。
木工班	製品や扱う工具の名称や使い方が分かり、安全に気をつけて取り組むことができる。	返事・挨拶・報告等、作業を進める上で必要なコミュニケーションを行い、作業工程や手順を理解して製作することができる。	自分の担当を時間いっぱい、責任をもって取り組み、製品を完成させた達成感や製品が売れる喜びを感じることができる。
生産班	様々な場面で使う道具の正しい扱い方を理解して安全に作業に取り組むことができる。	製品づくりを通して、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。	自分たちが育てた野菜や製作した製品を喜んで購入してもらえるように、仲間と工夫して取り組もうとする。
陶芸班	作業内容を理解し、使用する道具の扱いに慣れること。また、安全や衛生に気付き、工夫して取り組むこと。	朝礼や終礼を通して、作業課題やその解決策に気付き、発表することで伝え合う力や課題を解決する力を養う。	お皿づくりや販売活動を通して、働く意欲を高め、自ら学びに向かう力を育てる。また、報告・連絡・相談を守り、社会生活に必要な基本的態度を身に付ける。

リサイクル班	作業手順を理解し、安全に正しく道具を使うことができる。	働くことの目的を知るとともに、学習したことを振り返りながら工夫して取り組むことができる。	青山雪あかり納品や製品販売会に向け、報告・連絡・相談をしながら仲間と協力して主体的に取り組むことができる。
--------	-----------------------------	--	---

(2) 研修報告会

岩手大学附属特別支援学校の学校公開研究会について研修報告会を行った。

児童生徒が各教科等における「見方」、「考え方」を働かせ、主体的に活動する姿を目指した授業づくりの在り方を明らかにすることを研究の目的とし、実態把握シートを活用した実態把握と目標設定、目標に準拠した評価を行い、授業づくりに生かしていくこと、国語や数学の授業で働かせた「見方」、「考え方」が断片的にならず、合わせた指導等の学習でも働かせることができるような授業づくり、「習得」した資質・能力を「活用・探究」する学習活動が必要であり、そのためにカリキュラム・マネジメントが重要になることなど報告していただいた。

また、学習指導要領に準拠した年間指導計画・ルーブリック・個別の指導計画をリンクさせることで、PDCAサイクルが自ずとできあがり、効果的な指導・評価につながることも例として紹介していただいた。

4 成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各作業班でグループ協議を行ったことで、作業内容の見直しやさらに授業を深めるための手立てなど意見を出し合い、日々の授業改善に繋げることができた。 ・グループ協議で出された項目に共通事項があることが分かり、作業学習を通して、中学部段階で付けたい力(資質・能力)を見つけることができた。学習指導要領にも準拠(特に職業分野)。 ・「作業学習」の教科化を意識した学習指導案を作成したことで「職業・家庭」の内容のまとまりの共通事項を明確にすることができた。年間指導計画の作成のヒントになる。 ・学習指導要領に基づく「職業・家庭」の目標に沿った学部・各作業班の目標を設定することができた(仮)。これにより、今後の評価観点も共有できる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を意識した授業づくり →評価を次の授業、次年度の年間指導計画に生かす。(PDCAサイクル) ・今後も授業実践を通し、中学部で付けたい力が学習指導要領に則ったものであることを立証する。教科の目標や評価観点の共通理解。